

集会アピール

## 「お金の心配なく、安心して学びたい」

—教育予算を増やし、国の責任で教育の無償化を—

全国の父母・国民、教職員のみなさん。

本日、全国各地で約半年間にわたってとりくまれた、ゆきとどいた教育を求める全国署名（略称：教育全国署名）の集約集会を迎えました。今年度は本日の段階で 名分の署名が集約されています。

今年の署名運動は、総選挙を通して教育費の公費負担問題が政治の争点となるなかで開始され、来年度予算で公立高校無償化、私立高校就学支援、給付制奨学金が概算要求から政府予算として発表されるかどうかという緊迫した情勢の真っ只中で集約集会を迎えています。

私たちはこうした情勢にふさわしく創意あふれる取り組みを展開し、21年目の署名運動を全国各地で展開しました。子どもたちに深刻な影をおとす貧困問題、私学の学費滞納・経済的理由による退学問題、定時制の統廃合や募集定員削減によって高校に入学できない問題など、政治の責任で解決しなければならない問題や教育費負担のあり方を世に問い、政治を動かす取り組みを行ってきました。

また、この間高校生の自主的な活動が大きく報道され、社会を動かしてきました。昨年来の「大阪の高校生に笑顔をくださいの会」の活動が大阪府政を動かし、私立高校では来年からの2年間で年収500万円までの世帯に学費無償の道が開かれつつあります。また、経済的な理由で学校を去っていく仲間を救おうと高校生の募金活動が愛知から熊本、北海道に広がってきています。「お金がないと学校へ行けないの？」首都圏実行委員会が高校の教育費無償をめざし集会やパレードを行い、この年末には大阪の高校生と共に鳩山首相にメッセージカードを届ける活動を企画しています。定時制高校の統廃合反対、街頭での署名活動、フェスティバルや県議会への要請など多岐に渡る高校生の自主的なとりくみが、世論や政治を動かしてきました。こうした活動を通して教育や政治の課題を自らの課題として背負うなかで、自身も主体者として成長してきています。

学費無償をはじめ国が教育にお金をかけるのが世界の流れです。私たちは、教育費負担を「受益者負担」から公的負担へ質的に転換させていく大きな岐路に立っています。高校授業料無償化を学費無償化、教育費の無償につなげる取り組みに発展させましょう。そのためにできることをすべてやりきり、次の世代の人達からあの時代の運動があったから今の日本の教育があるということが刻まれる大きな運動と変化をおこしましょう。

ゆきとどいた教育を求める全国署名は3000万署名から数えて20年、私学助成署名から数えて40年、この運動が私学助成の国庫助成単価を60倍以上に押し上げ、東京を除く46道府県で少人数学級を実現させました。東京でも都民の声を受けとめて少人数学級実現に踏み出しつつあります。子どもたちがお金の心配をせずに安心して学校へ通えるように、幼稚園から大学までのすべての学校での学費無償化をも視野に入れたとりくみを展開しましょう。

昨年度は国会議員の4割近い紹介議員によって国会に提出された署名が、国政で大きな力になりました。今年度はさらに多くの紹介議員を獲得しましょう。そして、教育予算を増やし、国の責任で学費の無償化、私学助成の拡充、30人以下学級の実現をめざしましょう。そのために多くの人との話し合いをすすめ、手をつなぎ、世論を動かし、国や自治体を動かしていきましょう。

2009年12月11日

第21回ゆきとどいた教育を求める全国署名集約集会